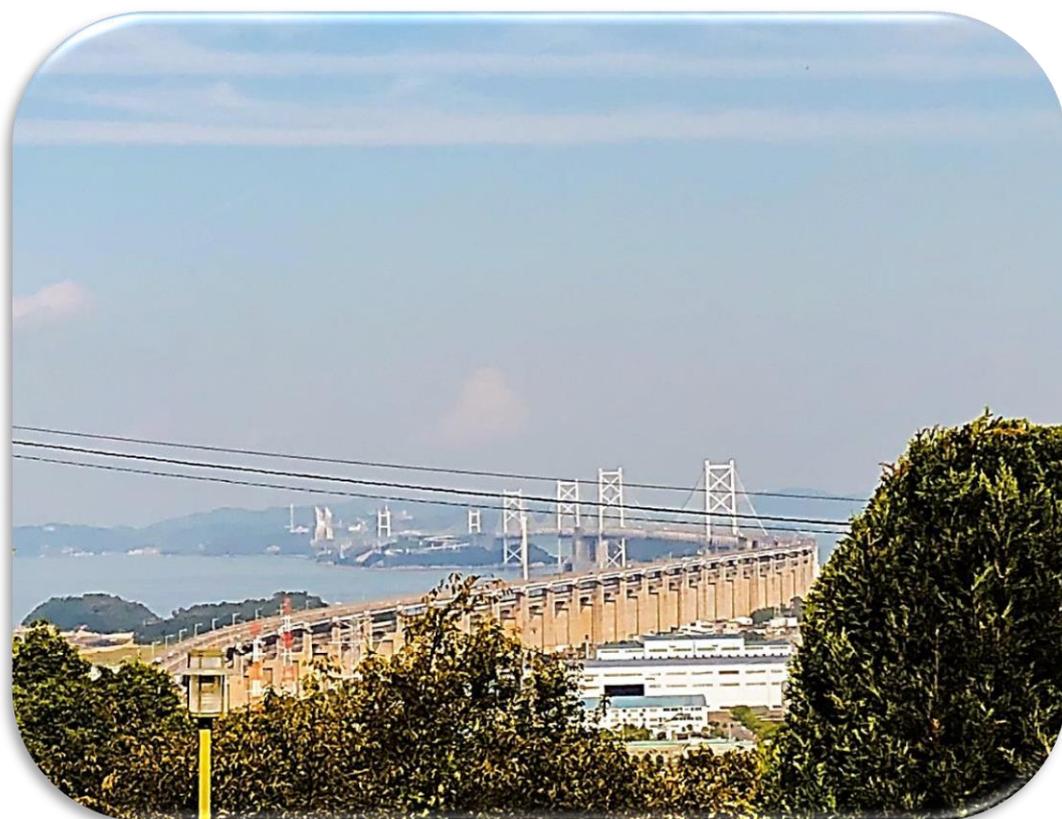


文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ しょうつうじやま 聖通寺山（坂出）を訪ねる
講師 中山 博道（坂出市文化協会 事務局長）
日時 平成30年11月18日（日）



共催

高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

目次

1	塩竈神社	1
2	久米通賢	3
3	津島寿一	5
4	瀬戸大橋竣工記念碑	6
5	三土忠三	8
6	聖通寺城と積石塚跡	10

1 塩竈神社

・所在地：坂出市常磐町二丁目一、七五

・御祭神：大綿津見神（海の神）
おおわだつみのかみ

・例祭日：十月二十五日

・御神徳：塩田守護、安産、豊漁、航海安全、商売繁盛、

交通安全 等

文政十一年（一八二八）、完成近い久米通賢の塩田を

守る神として、高松藩九代藩主松平頼恕公が通賢よりひろに命じ

塩竈神社（宮城県塩竈市）から、中湛甫の西北隅に勧請し文政十二年に竣工しました。天保九年（一八三八）に、



明神町（現中央町）の新社殿に遷座し、獅子頭などを奉納して一大祭典が催されました。
昭和三十九年（一九六四）旧国道十一号線（現県道三十三号線）の拡幅に伴って、坂出神社とともに聖通寺山中腹に遷座しました。

【坂出神社】

・御祭神：事代主神ことしらぬしのかみ・（戒大神）よりひろのみこと・松平頼恕命みちかたのみこと・久米通賢命

昭和九年（一九三四）、坂出市の今日の発展は塩田にあるとして、塩竈神社境内に市民の浄財で創建されました。

※坂出神社は、天保年間（一八三〇～四四）の創建と伝わりますが、昭和九年（一九三四）境内地整備の際、小さなお堂だったものを坂出神社として創建しました。久米通賢を祀つたのは、明治の末頃といわれています。

（御鎮座百五拾年祭記念誌・昭和五十三年〔一九七八〕五月十四日 塩竈神社より）

くめみちかた

2 久米通賢

久米通賢は、安永九年（一七八〇）引田郷に生まれました。寛政十年（一七九八）に大坂で間富重の門下生として天文曆学、測量術等を学びました。讃岐に帰国した後は、藩内測量や地図制作、土木事業の設計、監理など多方面に実績を残しました。

文政七年（一八二四）、藩財政はゆきづまり、窮乏の生活に苦しんでいた人々を救おうと、遠浅の坂出沖に塩田を開くことを第九代藩主の松平頼恕よりひろに建白しました。文政九年、坂出墾田の普請奉行となり、文政十二年に東大浜、西大浜を含む約百三十二ヘクタールの開墾に成功しました。藩財政だけでは事業の遂行ができないことから、私財をも投じて尽力したと伝えられています。これにより、坂出・宇多津を中心に西讃地域では広大な塩田が広がるようになり、坂出は塩づくりの町として発展していきました。

【久米通賢銅像】

昭和九年（一九三四）十二月、坂出神社竣工奉告祭で久米通賢銅像が除幕されました。

この像は、坂出高等小学校磯谷教諭の肖像画

をもとに、銅像原型師の織田朱越おだしゅえつ（一八九九〜

一九八二、現三豊市豊中町岡本生まれ）が制作

したものです。しかし、昭和十八年、戦争のため供出されました。

昭和三十七年、聖通寺山中腹の塩竈神社境内下段に再建され、坂出市長島田恭平が除幕しました。制作をしたのは、彫刻家の矢野秀徳（一九〇七〜、丸亀市川西町出身）です。



つしまじゅいち

3 津島寿一

【津島寿一】（明治二十一年～昭和四十二年）

津島寿一は、明治二十一年（一八八八）、坂出生まれました。東京帝国大学を優秀な成績で卒業した後、大蔵省に入省しました。以後、駐外財務官、大蔵省理財局長、大蔵次官を歴任しました。

終戦後、敗戦で疲弊している中、二期に渡り大蔵大臣として他国との損害賠償交渉に取り組むなど、国家財政の確立に貢献しました。また、国会議員として国政に参画し、その間、国務大臣、防衛庁長官、自由民主党外交調査会長等に就任するなど政界において重要な地位を占めました。

さらに、塩業組合中央会、全日本交通安全協会、日本体育協会、東京オリンピックピック組織



委員会の各会長（委員長）、日本棋院総裁等、数多くの要職に就きました。これらの輝かしい功績が高く評価され、昭和四十二年（一九六七）には正三位勲一等旭日大綬章を授与されています。また、同年には、名誉市民称号も贈呈されました。

逝去後、有志らにより、遺徳を偲び、功績を讃えるため、昭和四十七年（一九七二）に、塩竈神社境内下段に銅像が建立されました。

4 瀬戸大橋竣工記念碑

明治二十二年（一八八九）香川県議会議員の大久保謙之丞が、讃岐鉄道の丸亀―多度津―琴平線の完成祝賀会にて瀬戸大橋の架橋を提唱し、参列者を驚かせました。そして、昭和三十年（一九五五）に起きた国鉄宇高連絡船「紫雲丸」の事故により、瀬戸大橋の建設機運が高まり、香川県議会が「宇高連絡鉄道建設促進に関する意見書」を国に提出しました。昭和三十四年（一九五九）には建設省が本格調査を開始し、昭和五十三年（一九七八）九月二十九日に、瀬戸大橋（児島・坂出ルート）の建設着工について環境庁の同意が得ら

れ、同年十月十日に起工式を行い、待望の建設工事に着手することができました。そして着工から約九年六か月、昭和六十三年（一九八八）四月十日に瀬戸大橋は完成しました。

竣工を記念して、聖通寺山頂上近くの登山道には、瀬戸大橋竣工記念碑が建てられています。碑文には、「人々は一世紀もの長い間瀬戸内の海に橋を架けることを夢みてきた。そして人々はこのとてつもない大きな夢に挑戦し、遂にその夢を現実のものとした。瀬戸大橋は多くの人々の限りない情熱と最高の英知と汗にまみれた努力を積み重ね長い長い試練の歳月を経てここに輝かしく完成したのである。いよいよ瀬戸大橋時代の幕開けである。瀬戸大橋は人と人、地域と地域を結び付け多くの幸せを運



んでくれるにちがいない。(冒頭部分のみ抜粋)」と瀬戸大橋完成の喜びが綴られています。

みつちちゅうぞう

5 三土忠造

聖通寺山山頂付近に、香川県出身者で最初の

大臣となった三土忠造（一八七〇〜一九四八）

の銅像が建っています。銅像を制作したのは、

白鳥町に生まれた彫刻家の小倉右一郎（一八八

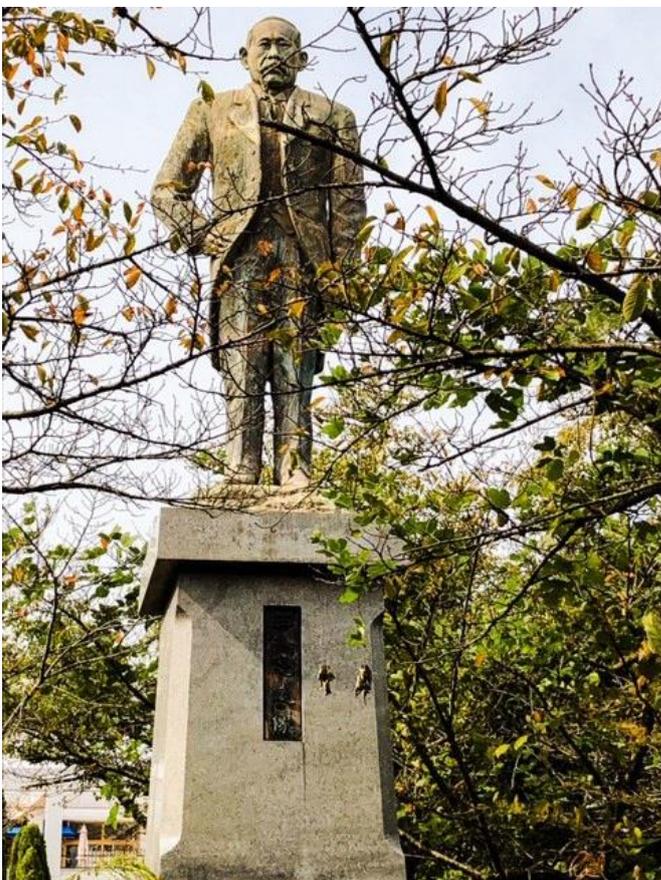
一〜一九六二）です。

三土忠三は、明治四年（一八七二）に、旧大

内郡水主村（現東かがわ市）の宮脇清吉の次男

として生まれ、坂出市西庄町の三土幸太郎の婿

養子となりました。東京高等師範学校を卒業後、



明治三十五年（一九〇二）にイギリス、ドイツに留学しました。帰国後、伊藤博文に招かれ、大韓帝国の教育制度調査に参加したことを機に政治への関心を抱くようになりました。

明治四十一年（一九〇八）に政友会から立候補して衆議院議員初当選を果たした後、大正十年（一九二一）には、高橋是清内閣の書記官長、昭和二年（一九二七）には、田中義

一内閣の文部大臣、大蔵大臣となりました。その後は、昭和六年に犬養毅内閣の逓信大臣ていしん

（郵便・交通・電信・電気を幅広く管轄）、昭和七年斎藤実内閣の鉄道大臣を歴任しました。

昭和九年の帝人事件では、斎藤内閣が崩壊し、三土忠三自身も偽証罪に問われ起訴されましたが、結局無罪となりました。昭和十五年には、天皇の政務上の最高諮問機関である枢密院に入り、枢密顧問員に親任され、太平洋戦争終結後までその任にありました。戦後は、幣原喜重郎内閣の内務大臣兼運輸大臣となり、貴族院議員にも勅選されましたが、昭和二十三年四月一日に逝去しました。

氏の遺徳を顕揚するため、有志らにより昭和三十三年四月十日に銅像が建てられました。

6 聖通寺城と積石塚跡

聖通寺城は、築城年代は諸説あり定かではありませんが、「南海通記」によれば、寛正五年（一四六四）奈良太郎左エ門元安が築城したと書かれています。

その縄張りや形などが、香西氏の勝賀城、香川氏の雨霧城、安富氏の雨滝城などに類似しているといわれています。

城は、聖通寺山の中峰頂上を本丸とし、この本丸から北へ約百メートルのところの平山と呼ばれる北ノ峯があり、ここには、「千石権兵衛の投石」と呼ばれていた古代の積石塚があります。千石権兵衛（仙



石秀久）は、豊臣秀吉に仕え、天正三年（一五八五）に讃岐国を与えられた戦国武将です。室町時代、宇多津の守備のため奈良氏が聖通寺山全域を郭とする城が築かれたときに、この平山も北ノ丸として郭が築かれた際、積石塚の原型が崩され、その後の領主の仙石氏の投石であるとの伝説が生まれました。

墳丘裾部や内部主体、出土遺物について不明な点が多いですが、讃岐の他の積石塚と同様に古墳時代前期～中期（約三世紀後半～五世紀）頃の築造と推察されており、備讃瀬戸を一望し中讃海域の要所に立地することにより、被葬者はこれらの地域に関係の深い有力首長ではなかったかと推察されています。

天保十三年（一八四二）、海岸防備のため、高松藩がこの積石を使ってここに狼煙場を構築した際にも、こ



聖通寺山からの眺め

の積石塚は崩されたと考えられています。さらに、昭和十五年（一九四〇）以来、公園化に伴う数回の工事に伴う積石の採石や、二回の築き直しにより、その形が小さくなり原形を失い、今は、旧体を推察することができないほど変形した小さな石積が積石塚として残っています。また、聖通寺城は、天正十五年（一五八七）に生駒親正が領主となりましたが、天正十六年に野原郷（高松市）で高松城の築城を開始し、後にそこへ移ったため廃城となりました。聖通寺山には公園が造られ、昭和二十七年六月に津島寿一により、常盤公園と命名されました。

参考文献

『御鎮座百五拾年祭記念誌』昭和五十三年、塩竈神社

『坂出市史 年表編』昭和六十三年、坂出市

「聖通寺山積石塚について」郷土史家 川畑迪

坂出市ホームページ「常磐公園について」<http://www.city.sakaide.lg.jp/soshiki/nigiwai/tokiwa-park.html>

「名誉市民」<http://www.city.sakaide.lg.jp/soshiki/seisaku/meiyoshimin.html>

11月18日(日)復路

- ①タクシーで坂出駅まで約20分⇒JR 坂出駅(12:50発)
⇒高松駅(13:05着)
- ②坂出市循環バス「常磐公園登山口」(12:30発)⇒「坂出駅」
(12:50着)⇒JR 坂出駅(13:21発)⇒高松駅(13:36着)

❖次回のふるさと探訪は…

◎テーマ:「ことでん空港通り駅から円座へ旧金毘羅街道を歩く」

(予定)

◎と き:平成30年12月16日(日)午前9時30分～正午頃

◎集合場所:未定

◎講師:安田 正彦さん(一宮コミュニティ協議会会長)

◎探訪先:辻堂池、一宮寺、大禹謨碑、潜水橋、霞堤、金毘羅灯籠、
廣旗神社など

◎参加費:無料



← ふるさと探訪(12月)
ホームページへ

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」12月1日号に開催案内を掲載予定です。

(ホームページでは、より詳細な開催案内や過去の資料を御覧いただけます。)

☆小雨決行。当日、警報が発令された場合は、中止とします。

なお、中止かどうか御不明な場合、午前7時30分～9時30分に文化財課(Tel 087-839-2660)でお知らせします。

(電話が通じない場合は実施予定ですので、集合場所にお集まりください。)

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。